

「おが」か「おじか」か？

男鹿山塊 男鹿岳

今シーズンは寡雪、暖冬のみならず天気の周期の悪さは嘆かわしい限りだが、それでも毎週せせと楽しげな山に通い続けている。しかし年が明けてからというもの、ベース形式や宿の利用他、実に様々な理由で、入山してから下山するまで1泊装備を担ぎ通しての山行が皆無という、入会以来初めての事態に陥ってしまっている。今後、長期山行予定が幾つか控えているのでこれでは芳しくないと思い、藪が心配されるが昨年からの宿題を果たしに行くことにする。

3月5日(土)：晴れ

仮眠した道の駅は1ヶ月前にも利用しているが、敷地内の雪は一段と少なくなっている。この一ヶ月間、殆ど降雪は無かったのかも知れない。何はともあれ先ずは栗生沢集落に向かうが、辺りの景色はどう見ても4月半ばの様相である。栗生沢集落の外れに簡易なバリケードがあり、積雪のため通行止めとの記載があるが、まだまだ先まで車で入れるだろうと進んでみる。しかし間もなく道路は雪で覆われ、通行困難となる。ここに駐車していく訳にもいかないので集落に戻り、迷惑にならないと思われる駐車スペースを探す。そして近所の方の了承を得て駐車した後、出発する。

バリケードより先の積雪は20cm位なので、スノーシューは着けずに進む。無理をすれば車を入れられたかなと思った矢先、倒木が道を塞いでいたので諦めがつく。釜沢橋の先で県道方面に進路を取り、大川峠を目指す。そして少し進むと積雪も増えたのでスノーシューを着ける。休憩は殆ど取らず、トレーニングも兼ねているので重い荷物で無理無理飛ばす。天気はすごく良く、汗が全身から噴き出す。

Co1050mで沢を横切った先でリーダーの提案により、水が汲めるここに主だった荷物をデポして山頂を往復することになった。私はトレーニングであることと当初の幕営予定より大分手前であることから万全を期し、アルコールのみのデポに留めることにする。この辺りは道のかかなりの部分が流されており、斜面のトラバースで通過する。

Co1224mの所で尾根に取り付こうかという選択肢があったが急なうえ、その上の様子も読み切れないので予定通り、大川峠を目指すことにする。大川峠の手前で、どうしても左足の指が痛むので靴を履き直してみることにする。しかし特に靴も靴下も異常がないので、指自体の故障なのか。とりあえず気をつけて進むことにする。

大川峠に着いた時には既にメンバーはおらず、風が出てきたので身支度のみ整えて大急ぎで出発する。ここまでのオーバーペースが祟ってか、ラッセルのトレースを辿っているのにも関わらず、なかなか追いつけない。かくなる上は私も荷物をデポしてスピードアップを図りたいと思うが、もしかしたら山頂からCo1224mへの尾根から下りようと言う可能性もゼロではないので、

【日程】

2016年3月5日(土)～6日(日)

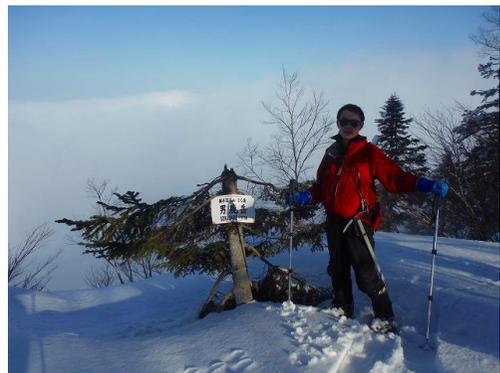
【メンバー】

佐貫(シ)、棚橋、野口

【地形図】

栗生沢、日留賀岳

【記】 棚橋



OZIKADAKE 山頂

できればデポするのは追いついてからにしたい。でも追いつかないことにはデポするのを告げることもできない。何とか頑張って栗石山の手前で野口君に追いついたところで荷物をデポし、そんな訳で自分はこのルートを下山しなければならないことを伝えて先行する。

荷物がなければ呆気なく栗石山の先にいた佐貫に追いつき、ラッセルを交代する。後続メンバーがなかなか追いついてこないで、一体何をやっているのだと思っていたのではないかと。そこから30分弱で男鹿岳に到着する。訪れる人など殆どいないだろうと勝手に思っていたが「栃木の山100選」にも選ばれているためか山名板が2か所も有り、想像していた以上にメジャーな感じがした。ようやく辿りついた山頂であったが16時近い時間、早々に下山を開始する。

大川峠までは各自のペースで下りたので、峠で一度集合する。既に17時、ベース地までヘッ電無しでは無理なので、ここで準備をして再出発する。私は足が痛いのですがすぐにでも行動を終了したいところだが、他の2名は最低限の装備しか持っていないのもう少し頑張らねばならない。無理をせず、また休みもせず歩くと19時前にデポ地に着いた。水は汲めるのでテントを設営すると、すぐに宴会に突入した。体はすっかりからからで、野口君が持ってきてくれた大量のビールでようやく乾燥状態から元に戻す。本当に美味かった。

3月6日(日)：晴れ

来た道を進むだけだが、天気はゆっくりだが下り坂の予報なので8時前に出発。昨日と違って風も無く、本当に良い天気だ。一度休憩を挟んだ後もさっさと進むと、間もなく昨日スノーシューを着けた地点へと着く。雪は昨日より一層減っているが、スノーシューを外さずに行ける所まで進んでみる。そして外した後はフキノトウを摘みながら進み、駐車させて頂いた地点へと着いた。

装備を整理しながら近所の方より、2~3日前に20cm位の降雪があったことを確認させて頂いたり、また林道黒磯田島線の管理が市から県に移ってから整備されなくなった話など伺い、温泉にて汗を流した後、帰途に就いた。

これで男鹿山塊の主だった山頂を踏むことは叶った。ところで「男鹿」の読みであるが、「おが」なのか「おじか」なのかずっと気になっていた。野岩鉄道で最も乗車人員の少ないとされる駅名は「おじかこうげん」駅であるし、山頂にあった山名札にも「OZIKADAKE」とあった。しかしそれだけでは腑に落ちず、いろいろ調べてみた結果、福島県側では「おが」、栃木県側では「おじか」と読むのではないかと、自分の中では結論づけた。しかしその後、栃木県側でも「おが」と呼んでいることがわかり、再考を要することとなってしまった。

【行程】

3/5 栗生沢集落(8:09)~Co1050 ベース(11:26/38)
~大川峠(13:39/48)~栗石山(15:20)~男鹿岳
(15:51/57) ~大川峠(17:03/12)~Co1050 ベース
(18:50)

3/6 Co1050 ベース(7:50)~栗生沢集落(10:51)

